

令和6年度 食物栄養学部食物栄養学科 実務経験のある教員による授業科目一覧・シラバス

九州栄養福祉大学

一覧

授業科目	担当教員	単位数	授業の概要(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
食物と薬	有吉 俊二	2	食物と薬の両面の接点を理解するため、生体調節機構と薬の作用部位を提示し、料理（一般食材）、薬膳料理（生薬、一般食材）、漢方処方（生薬）などの諸々の生活習慣病を対比させ、「食」を基本として各疾患の予防・治療の具体例を挙げて医薬食同源を理解して頂く。大学文部教官として薬理学の教育、保険薬局薬剤師として患者への服薬指導業務の経験を踏まえ、種々の角度から眺められる視点を育てることと管理栄養士の国家試験の基礎基盤（基礎栄養学、機能的表示食品制度など）や生命化学を基本としての教育、また大学外の医薬実践に目を向ける幅広い教育も実施する。
応用栄養学 I	池本 美智子	2	栄養アセスメントが出来ることは栄養管理の基本となる。栄養アセスメントの意義・目的を理解し、健常者における栄養アセスメントの第1歩として食事摂取基準を学ぶ。これをふまえてのライフステージ別の栄養管理の理解となる。この講義では、病院管理栄養士経験を有する教員が、母体、及び胎児期から成長期までの各ライフステージ（妊娠期・授乳期、乳児期、幼児期、学童期）における成長、発達に伴う生理機能の変化や栄養状態の変化などについて講義し、教室内での討議を組み込みながら学びを深めていく。
栄養教育論 I	渡辺 響子	2	栄養教育は、管理栄養士・栄養士にとって専門性を発揮して行なう業務そのものである。管理栄養士としての使命感、職業観を育み、健康の維持・増進ならびに傷病者の治療を目的とする食生活の指導ができるように、栄養教育に必要な基礎的知識と技能について、実際に即して学習する。また現代社会の食環境を踏まえ、必要とされている栄養教育の課題を理解し、栄養教育計画の立案ができることを目的とし、その実践が栄養教育論実習において展開できるよう連携していく。この講義では、病院や行政栄養士としての職務経験を有する教員が、実際の市民への栄養教育について紹介し、実践に活かせる方法について学習する。授業は、教科書をもとに構成し、さまざまな資料を加筆し、スライドを用いてわかりやすく説明、解説をして進めていく。一方的な講義にならるように、学生自身の理解や考えを発表してもらいながら講義を進めていく。

栄養教育論Ⅲ	渡辺 響子	2	生活習慣病をはじめとする多くの疾患の予防・治療のために、現行の食行動を変容させる必要がある人を援助し、食行動変容に関する理論と技法を学ぶ。そのために必要な心理、行動科学的理論を学ぶ。さらに、カウンセリングの理論とその技法を栄養教育へ応用する方法を理解し、栄養士・管理栄養士の現場において展開できるようにする。この講義では、行政や病院の管理栄養士としての職務経験を有する教員が、実際の栄養指導について経験を踏まえて講義をする。授業は、教科書にそってスライド及び当日配付の資料により説明、解説をして進めていく。ロールプレイングを取り入れ、体験しながら、理解を深めていく。
公衆栄養学Ⅰ	大村 美智子	2	公衆栄養学は、人間集団を観測対象とし、食べ物を主な要素とする栄養学である。ヒトの健康問題がどの因子に基づくものであるのか、その問題解決のためにはどのようにすべきかを解明して、疾病予防・健康増進を図るものである。日本人がかかえている疾病の多くは、栄養素の不適切な摂取が原因で起こる生活習慣病の乱れによるものが多いことから、取り巻く環境・社会・経済・文化的要因に関する情報を収集し・分析し、総合的に評価・判定する能力を養成する。また、地域公衆栄養活動を展開するうえでの理論と実際についても考察する。公衆栄養活動に長年にわたり携わっていた教員が法に基づき、国からの通知通達で事業を展開するために常にやっている PDCA サイクルに基づいた事業ができるようにするために、グループディスカッションを取り入れながら、課題の抽出企画立案実施評価ができるようにする。
給食管理	中野 眞弓	2	特定給食施設利用者への具体的な「栄養・食事管理」と「経営管理」を中心に学修し、計画・調理・サービスを行うために必要な給食業務全般を総合的にマネジメントできる能力を修得する。さらに関連法規、給食施設の種類や特徴等を把握し、給食経営管理の遂行に不可欠な基礎知識を学ぶ。本授業では事業部給食課、社会福祉施設等での勤務実績を基に給食管理全般を円滑に管理経営するための基本的な知識・技術について実務に沿った講義を行う。
児童・生徒の栄養指導Ⅰ	安倍 ちか	2	本科目では、栄養教諭、行政の職務経験を有する教員が、栄養教諭制度が創設された経緯や栄養教諭の役割について社会的ニーズを踏まえて講義を進めるとともに、グループディスカッションを通して理解を深める。子どもたちの食生活の現状は、朝食欠食、栄養の偏り、肥満、痩身傾向等、生活環境や食生活の乱れが深刻になっている。このような背景のもとに栄養教諭

		<p>は、学校給食の管理と食に関する指導を一体的なものとして、栄養に関する専門性をいかに教育に生かすかという視点で教育力や食の専門性の向上を図る必要性について学ぶ。具体的には、児童・生徒の食に関する課題を把握するとともに、学校における食に関する指導を充実するための法的整備、学校給食を教材として活用した食に関する指導の在り方、給食時間をはじめとして関連教科、領域等、学校教育活動全体を通して食に関する指導を展開させたい。</p>
<p>合計単位数：14 単位</p>		

授 業 科 目 名	食物と薬		
担 当 者 名	有吉 俊二	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1100009	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ	DP2-1-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>食物と薬の両面の接点を理解するため、生体調節機構と薬の作用部位を提示し、料理（一般食材）、薬膳料理（生薬、一般食材）、漢方処方（生薬）などの諸々の生活習慣病を対比させ、「食」を基本として各疾患の予防・治療の具体例を挙げて医薬食同源を理解して頂く。大学文部教官として薬理学の教育、保険薬局薬剤師として患者への服薬指導業務の経験を踏まえ、種々の角度から眺められる視点を育てることと管理栄養士の国家試験の基礎基盤（基礎栄養学、機能性表示食品制度など）や生命化学を基本としての教育、また大学外の医薬実践に目を向ける幅広い教育も実施する。</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>食物には、五大栄養素（炭水化物、蛋白質、脂質、ビタミン、ミネラル）などがあり、このほか食物繊維、核酸、香気成分などの非栄養成分が多種含まれ、健康維持、健康増進がある共に、病気の予防・治療に関わる生体機能の調節や薬の視点で働きうる重要な化学物質も存在している。それらの化学物質が薬と同様の作用があるが、その必要量があって初めて薬であるということを理解すること、また機能性食品でなく食物全体が薬になりうることの中国医学の自然療法の陰陽五行説の基礎基盤があることの理解を深める。</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	講義概説、食品の機能性 p2～p5	事前に読んで疑問点を準備する(90分)。事後に疑問点を整理する(90分)。	
2	高血圧症と食品の機能性 p8～p18	事前に読んで疑問点を準備する(90分)。事後に疑問点を整理する(90分)。	
3	アレルギー・免疫と食品の機能性 p19～p25	事前に読んで疑問点を準備する(90分)。事後に疑問点を整理する(90分)。	
4	悪性新生物(がん)と食品の機能性 p26～p42	事前に読んで疑問点を準備する(90分)。事後に疑問点を整理する(90分)。	
5	血栓症と食品の機能性 p43～p56	事前に読んで疑問点を準備する(90分)。事後に疑問点を整理する(90分)。	
6	肝疾患と食品の機能性 p57～p63	事前に読んで疑問点を準備する(90分)。事後に疑問点を整理する(90分)。	
7	糖尿病と食品の機能性 p64～p69	事前に読んで疑問点を準備する(90分)。事後に疑問点を整理する(90分)。	
8	痛風と食品の機能性 p70～p72	事前に読んで疑問点を準備する(90分)。事後に疑問点を整理する(90分)。	
9	骨粗鬆症と食品の機能性 p73～p81	事前に読んで疑問点を準備する(90分)。事後に疑問点を整理する(90分)。	
10	認知症・記憶学習能力低下予防と食品の機能性 p92～p96	事前に読んで疑問点を準備する(90分)。事後に疑問点を整理する(90分)。	
11	エイズ(AIDS)等と食品の機能性 p97～p98	事前に読んで疑問点を準備する(90分)。事後に疑問点を整理する(90分)。	

12	食品の機能性と機能性素材 p100～p167	事前に読んで疑問点を準備する(90分)。 事後に疑問点を整理する(90分)。
13	食品の機能性と機能性素材 p100～p167	事前に読んで疑問点を準備する(90分)。 事後に疑問点を整理する(90分)。
14	今後の課題および法律面 p170～p181	事前に読んで疑問点を準備する(90分)。 事後に疑問点を整理する(90分)。
15	コラムp184～p191 2～11項目でグループ討論と発表	事前に課題を選定する(90分)。 事後に疑問点を整理する(90分)。

準備学習・事後学習等についての補足説明

予習・受講・復習を通じ、自分の認識の変化を感じてもらいたい。自分で学習したことをレポート提出。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

出席および授業態度	定期試験	レポート	
5%	90%	5%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
食品機能学への招待 ―生活習慣病予防と機能性食品―	須見洋行・矢田貝智恵子	三共出版株式会社

参考書又は参考資料等

井上正康：『活性酸素と医食同源』 三共出版株式会社（1996）
 武鈴子：からだに効く和の薬膳便利帳（2012）
 大東肇ら：食べものつくすり―食の薬効を探る― 建帛社（2014）
 日本の伝統食品事典 朝倉書店（2016）
 林眞一郎：アロマセラピー&ミディカルハーブ 南山堂
 日本医師会など：健康食品サプリメント「成分」すべて2017
 緒方千秋：初めての一步で学ぶ漢方医学 羊土社
 張瀧英：新編・中医学基礎編 源草社
 看護学入門 薬理 メディカルフレンド社 2022

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

食材や原薬の産地の影響を受けやすい栄養価や純度の重要性をどのように考えるか。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	メールの件名に学籍番号と氏名を入力してください。

授 業 科 目 名	応用栄養学Ⅰ		
担 当 者 名	池本 美智子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1100045	授 業 形 態	講義
学 年	2年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数	2	履 修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナ ン バ リ ン グ	DP1-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>栄養アセスメントが出来ることは栄養管理の基本となる。栄養アセスメントの意義・目的を理解し、健常者における栄養アセスメントの第1歩として食事摂取基準を学ぶ。これをふまえてのライフステージ別の栄養管理の理解となる。この講義では、病院管理栄養士経験を有する教員が、母体、及び胎児期から成長期までの各ライフステージ（妊娠期・授乳期、乳児期、幼児期、学童期）における成長、発達に伴う生理機能の変化や栄養状態の変化などについて講義し、教室内での討議を組み込みながら学びを深めていく。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>1) 栄養アセスメントについて理解し、アセスメント技術の基本的知識を習得する。 2) 日本人の食事摂取基準について理解し、活用できるようになる。 3) 生理・生化学、基礎栄養学を基礎とした成長期までの各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理についての理解を深め、説明できるようになる。</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション：この講義の目的と講義内容の紹介。学習方法についての説明。	<p>事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認）を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)</p>	
2	栄養ケアマネジメント(1)：栄養管理プロセスの概念	<p>事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認）を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)</p>	
3	栄養ケアマネジメント(2)：栄養アセスメントの意義と目的	<p>事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認）を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)</p>	
4	日本人の食事摂取基準(1)：食事摂取基準の意義、策定の基礎理論	<p>事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認）を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)</p>	
5	日本人の食事摂取基準(2)：エネルギー・栄養素別食事摂取基準	<p>事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認）を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)</p>	
6	妊娠期・授乳期(1)：妊娠期・授乳期の特性	<p>事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認）を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)</p>	

7	妊娠期・授乳期(2)：妊娠期・授乳期の栄養アセスメントと栄養ケア	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認）を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
8	新生児期・乳児期(1)：新生児の特性と栄養	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認）を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
9	新生児期・乳児期(2)：乳児期の特性と栄養	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認）を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
10	新生児期・乳児期(3)：新生児期・乳児期の栄養アセスメントと栄養ケア	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認）を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
11	成長期・小児の特性と栄養	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認）を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
12	幼児期(1)：幼児期の食生活；咀嚼能力の発達と食事	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認）を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
13	幼児期(2)：幼児期の栄養アセスメントと栄養ケア	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認）を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
14	学童期：学童期の食生活；咀嚼能力の発達と食事、栄養アセスメント	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認）を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)
15	総括	事前：テキスト指定範囲（シラバスにて確認）を通読しておくこと(90分) 事後：学習内容のまとめを行い、ノート整理をすること(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

- ・「事後学習」については、こまめにノートまとめを行い、学んだ知識を整理しておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	小テスト・授業態度等		
80%	20%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
-----	----	-----

五訂 応用栄養学 [第2版]	津田 博子、麻見直美	建帛社
日本人の食事摂取基準〔2020年版〕	伊藤 貞嘉、佐々木 敏	第一出版
参考書又は参考資料等		
その他 〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元ごとに、授業習得状況確認（小テスト形式）を行います。これは成績評価の対象となり、またフィードバック資料として、定期試験に向けた学習にも活用できます。 ・ 講義中の私語は厳禁です。スマホは指示がない限り授業中の使用を禁じます。 		
担当教員の連絡先等		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名	栄養教育論Ⅰ		
担 当 者 名	渡辺 響子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1100049	授 業 形 態	講義
学 年	2年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数	2	履 修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナ ン バ リ ン グ	DP1-2-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>栄養教育は、管理栄養士・栄養士にとって専門性を発揮して行なう業務そのものである。管理栄養士としての使命感、職業観を育み、健康の維持・増進ならびに傷病者の治療を目的とする食生活の指導ができるように、栄養教育に必要な基礎的知識と技能について、実際に即して学習する。</p> <p>また現代社会の食環境を踏まえ、必要とされている栄養教育の課題を理解し、栄養教育計画の立案ができることを目的とし、その実践が栄養教育論実習において展開できるよう連携していく。</p> <p>この講義では、病院や行政栄養士としての職務経験を有する教員が、実際の市民への栄養教育について紹介し、実践に活かせる方法について学習する。</p> <p>授業は、教科書をもとに構成し、さまざまな資料を加筆し、スライドを用いてわかりやすく説明、解説をして進めていく。一方的な講義にならるように、学生自身の理解や考えを発表してもらいながら講義を進めていく。</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養教育の意義と特性および現在必要とされている栄養教育の課題について理解し、説明できる。 2. 栄養改善活動の現状について学習し、制度、法規について理解を深める。 3. わが国の栄養摂取状況を把握し、栄養素等摂取不足、摂取過剰による問題点と解決策を具体的に説明できる。 4. 栄養教育を実施する上で、栄養評価の重要性を理解し、的確に評価をすることができる。 5. 問題解決のための栄養マネジメントを理解し、栄養教育計画を立案することができる。 6. 問題解決のための情報収集の方法及び適切な学習方法を活用することができる。 7. 栄養教育の評価の方法を理解し、それぞれの評価を行い、目的評価と技術評価ができる。 <p>これらの学習を通して、栄養教育の方法と技術の基本を理解し、管理栄養士として行動できる態度を養う。</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	栄養教育の概念1 栄養教育の定義と目的	事前：テキスト全体にざっと目を通しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
2	栄養教育の概念2 栄養教育と健康教育・ヘルスプロモーション・食育	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
3	栄養教育マネジメントとは PDCAサイクル	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
4	栄養教育の対象と機会	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
5	栄養教育のためのアセスメント1 栄養教育におけるアセスメントの意義と目的	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
6	栄養教育のためのアセスメント2 情報収集の方法	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	

7	栄養教育のためのアセスメント3 栄養アセスメントの種類と方法	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
8	栄養教育の目標設定と計画立案1 プログラム	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
9	栄養教育の目標設定と計画立案2 目標設定	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
10	栄養教育の目標設定と計画立案3 栄養教育方法の選択、学習形態選択と組み合わせ	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
11	栄養教育の目標設定と計画立案4 教材、食事バランスガイド等	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
12	栄養教育の目標設定と計画立案5 プログラム作成	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
13	栄養教育の実施と評価1 栄養教育の実施	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
14	栄養教育の実施と評価2 栄養教育の評価	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
15	栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

- ・事前学習：食を取り巻く社会情勢について、日々、新聞、ニュース等から情報を得ておく。
- ・事後学習：学習内容を整理して記載し、復習を常に行ない、次週の授業に備える。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート、小テスト	授業への積極的な取り組み	
80%	10%	10%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
栄養教育論〔改定第5版〕	武見ゆかり、足達淑子 他 編	南江堂

参考書又は参考資料等

厚生労働省のホームページからのプリントアウト等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

※成績評価について、

- ①課題は期限を守って提出する。
- ②講義終了時に、レポート又は小テストを実施することがある。
- ③学期末に15回の講義日以外の日程で試験を実施する。

①～③を総合して習熟度を評価する。

- ・必要な教材・資料として、プリントを適宜配付するので、各自ファイリングして活用すること。
- ・講義中の私語や、居眠り等、不真面目な態度は減点の対象とする。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
------------	-----

後日、オフィスアワーの時間を知らせるので、自由に質問
に来てほしい。

授 業 科 目 名	栄養教育論Ⅲ		
担 当 者 名	渡辺 響子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1100051	授 業 形 態	講義
学 年	4年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数	2	履 修	管理栄養士必修
ナ ン バ リ ン グ	DP1-4-A		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>生活習慣病をはじめとする多くの疾患の予防・治療のために、現行の食行動を変容させる必要がある人を援助し、食行動変容に関する理論と技法を学ぶ。そのために必要な心理、行動科学的理論を学ぶ。さらに、カウンセリングの理論とその技法を栄養教育へ応用する方法を理解し、栄養士・管理栄養士の現場において展開できるようにする。この講義では、行政や病院の管理栄養士としての職務経験を有する教員が、実際の栄養指導について経験を踏まえて講義をする。</p> <p>授業は、教科書にそってスライド及び当日配付の資料により説明、解説をして進めていく。ロールプレイングを取り入れ、体験しながら、理解を深めていく。</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食行動変容に関する理論がわかる。 2. 食行動変容の段階と各ステージにおける心理的特徴と援助法がわかる。 3. 食行動変容により生じる心理的問題がわかる。 4. セルフコントロールの効用と問題点がわかる。 5. 栄養教育の目標設定の意義と方法を理解し、応用ができる。 6. 栄養教育の評価の種類と評価デザインについて理解する。 <p>教科内容は、栄養教育論の国家試験問題の中では、難解の部分であるため、授業では練習問題を活用して理解を深める修練を行う。</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	栄養教育の定義と目的 栄養教育と行動科学 行動の種類 レスポンデント行動とオペラント行動	事前：テキストの第2章を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
2	個人要因に焦点を当てた行動変容の理論1 ヘルスビリーフモデル、計画的行動理論	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
3	個人要因に焦点を当てた行動変容の理論2 トランスセオレティカルモデル(行動変容ステージモデル)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
4	対人関係や環境要因に焦点を当てた行動変容の理論 社会的認知理論、自己効力感、ソーシャルサポート	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
5	大規模集団や地域レベルの行動変容の理論1 大規模集団等の変化についての行動科学理論 コミュニティオーガニゼーション、エンパワメント、ソーシャルキャピタル	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
6	大規模集団や地域レベルの行動変容の理論2 ヘルスリテラシー	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
7	大規模集団や地域レベルの行動変容の理論3 イノベーション普及理論、	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	

8	栄養カウンセリング1 カウンセリングとは何か 行動カウンセリングの方法論 カウンセリングの基礎	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
9	栄養カウンセリング2 認知行動療法 動機づけ面接	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
10	栄養カウンセリング3 行動療法面接の実際	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
11	行動変容のための技法1 ナッジ、刺激統制、反応妨害・拮抗、行動置換等	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
12	行動変容のための技法2 オペラント強化法、認知再構成法、目標宣言等	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
13	行動変容のための技法3 ストレスマネジメント、社会技術訓練	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
14	栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル1 プッシュ・プルモデル、生態学的モデル	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
15	栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル2 ソーシャルマーケティング	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

- ・事前学習：食を取り巻く社会情勢について、日々、新聞、テレビ、インターネットのニュース等から情報を得ておく。
- ・事後学習：学習内容を整理して記載し、予習、復習を常に行ない、次週の授業に備える。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート、小テスト	授業への積極的な取り組み	
80%	10%	10%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
健康・栄養科学シリーズ 栄養教育論〔改定第5版〕	武見ゆかり、足達淑子 他 編	南江堂

参考書又は参考資料等

- ・講義時に、適宜提示する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

成績評価について、

- ①課題は、期限を守って提出する。
- ②講義終了時に毎回、小テストを実施する。
- ③学期末に15回の講義日以外の日程で試験を実施する。
- ①～③を総合して習熟度を評価する。

- ・必要なものは事前に連絡をするので、忘れ物がない状態で授業には臨むこと。
- ・毎時間、必要な教材・資料として、プリントを適宜配付するので、各自ファイリングして活用すること。
- ・講義中の私語や、居眠り等、不真面目な態度は減点の対象とする。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他
	後日、オフィスアワーの時間を知らせるので、自由に質問に来てほしい。

授 業 科 目 名	公衆栄養学Ⅰ		
担 当 者 名	大村 美智子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1100060	授 業 形 態	講義
学 年	2年	開 講 期	2024年度後期
単 位 数	2	履 修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修・食品衛生管理者・監視員必修
ナ ン バ リ ン グ	DP1-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>公衆栄養学は、人間集団を観測対象とし、食べ物を主な要素とする栄養学である。ヒトの健康問題がどの因子に基づくものであるのか、その問題解決のためにはどのようにすべきかを解明して、疾病予防・健康増進を図るものである。</p> <p>日本人がかかえている疾病の多くは、栄養素の不適切な摂取が原因で起こる生活習慣病の乱れによるものが多いことから、取り巻く環境・社会・経済・文化的要因に関する情報を収集し・分析し、総合的に評価・判定する能力を養成する。また、地域公衆栄養活動を展開するうえでの理論と実際についても考察する。公衆栄養活動に長年にわたり携わっていた教員が法に基づき、国からの通知通達で事業を展開するために常にやっているPDCAサイクルに基づいた事業ができるようにするために、グループディスカッションを取り入れながら、課題の抽出企画立案実施評価ができるようにする</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>公衆栄養学には基礎となる法の理解が必要となる。まず、法について理解を深めるとともに、客観的に説明できるようにする。</p> <p>地域に根付いた集団の特性や諸問題を把握したうえ、データを用いて分析評価する方法を取得する。</p> <p>公衆栄養プログラムを計画・実施・評価する方法を修得し企画、実践できるようにする。</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション：この講義の目的と講義内容の紹介。学習方法について説明 公衆栄養学の概念について	事後：使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたレポートを作成すること（90分）	
2	公衆栄養活動 ヘルスプロモーション 疾病予防のための公衆栄養活動	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：疾病予防について、どんなものがあるのかを具体的に例示をあげてレポートを作成すること（90分）	
3	事後学習で調べたことを発表する。 公衆栄養活動の歴史（～戦前）	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：授業内容について復習しておくこと（90分）	
4	公衆栄養活動の歴史（戦後～）	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：歴史の背景についてより詳細に調べ、レポートを作成すること（90分）	
5	健康・栄養問題の現状と課題 栄養健康状態の変遷と疾病構造の変化について小グループで話し合いグループ別発表を行う	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：学習内容に関する情報収集を行い、復習をすること（90分）	

6	健康・栄養問題の現状と課題 食事の変化について各自で調べ、発表を行う。	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：学習内容に関係する情報収集を行い、レポートを作成すること（90分）
7	健康・栄養問題の現状と課題 食環境の変化について各自で調べ、発表を行う。	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと90分） 事後：次回確認テストを行うので、2回から7回までの復習をすること（90分）
8	2回から7回までの内容の確認テストを行う。 フードバランスシート 食料自給率	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：学習内容に関係する情報収集を行い、レポートを作成すること（90分）
9	諸外国の健康・栄養問題の現状 開発途上国の問題点について小グループで調べ、発表する。	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：教科書に載っている練習問題をしていくこと（90分）
10	家庭学習で行った練習問題について解答、説明を行うので各自で採点 諸外国の健康・栄養政策	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：教科書に掲載されている練習問題について、再確認を行う。諸外国の政策についてどのようなものがあるか、調べる（90分）
11	諸外国の政策についてどのようなものがあるか、調べ、発表する。 公衆栄養活動と関連法規	事前：テキスト指定範囲（前回授業終了時、通知）を通読しておくこと（90分） 事後：次回確認テストを行うので、8回から11回までの復習をすること（90分）
12	8回から11回までの内容の確認テストを行う。 栄養士法 管理栄養士・栄養士の社会的役割	事前：テキストの指定範囲（掲示）を通読しておくこと（90分） 事後：テストをもう一度見直して、理解を深めておくこと（90分）
13	管理栄養士と栄養士の違いについて発表すること 地域保健法 保健所と保健センターの役割	事前：テキストの指定範囲（掲示）を通読しておくこと（90分） 事後：保健所と保健センターの役割についてより詳しく調べておくこと（90分）
14	保健所と保健センターの違いについて発表すること 母子保健法 高齢者の医療の確保に関する法律	事前：テキストの指定範囲（掲示）を通読しておくこと（90分） 事後：次回確認テストを行うので、12回から14回までの復習をすること（90分）
15	我が国の公衆栄養活動と関連法規について発表する。 12回から14回までの内容の確認テストを行う。 まとめ	事前：公衆栄養活動と関連法規について発表できるようにわかりやすくまとめる（90分） 事後：講義全体の復習を行う（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

キーワードノートについては9回目、14回目の講義後に提出を求める。10回目、15回目の講義時に返却する。

発表する箇所については自分でわかりやすく発表できるように練習しておくこと。プレゼンの方法についても理解しておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
定期試験	小テスト		
80%	20%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学「改訂第8版」	古野純典 他	南江堂	
参考書又は参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省のホームページからのプリントアウト ・新聞 			
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕			
<p>机上で学んでいることが実践できた時の達成感を味わってほしい。日頃から社会情勢に関心を持ち、栄養食生活改善がどのように地域で展開されているか経験してほしい。わからないことは積極的に質問してほしい。</p>			
担当教員の連絡先等			
担当教員E-mail	その他		
	講義終了後の質問等対応可		

授 業 科 目 名	給食管理		
担 当 者 名	中野 眞弓	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1100063	授 業 形 態	講義
学 年	2年	開 講 期	2024年度後期
単 位 数	2	履 修	必修・栄養士必修・管理栄養士必修
ナ ン バ リ ン グ	DP3-2-B		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	特定給食施設利用者への具体的な「栄養・食事管理」と「経営管理」を中心に学修し、計画・調理・サービスを行うために必要な給食業務全般を総合的にマネジメントできる能力を修得する。さらに関連法規、給食施設の種類や特徴等を把握し、給食経営管理の遂行に不可欠な基礎知識を学ぶ。本授業では事業部給食課、社会福祉施設等での勤務実績を基に給食管理全般を円滑に管理経営するための基本的な知識・技術について実務に沿った講義を行う。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	管理栄養士養成課程におけるコアカリキュラムの「特定多数の人々の健康・栄養状態の改善・維持・向上、QOLの向上を目的とした栄養・食事管理を効率的に継続して実施するシステム及びマネジメント」を給食経営管理の概念に基づき理解できるようにする。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	給食の概念 (1)給食の概要	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する(90分) 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む(90分)	
2	給食の概念 (2)給食システム	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する(90分) 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む(90分)	
3	給食の概念 (3)給食を提供する施設と関係法規 演習問題を行う	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する(90分) 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む(90分)	
4	栄養・食事管理 (1)栄養・食事管理の概要	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する(90分) 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む(90分)	
5	栄養・食事管理 (2)栄養スクリーニングと栄養アセスメント 演習問題を行う	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する(90分) 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む(90分)	
6	栄養・食事管理 (3)栄養・食事の計画	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する(90分) 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む(90分)	
7	栄養・食事管理 (3)栄養・食事の計画	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する(90分) 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む(90分)	
8	栄養・食事管理 (4)栄養・食事計画の実施、評価、改善 演習問題を行う	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する(90分) 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む(90分)	
9	給食の生産(調理) (1)食材	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する(90分) 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む(90分)	
10	給食の生産(調理) (2)生産(調理)と提供	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する(90分) 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む(90分)	
11	給食の生産(調理) (2)生産(調理)と提供	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する(90分) 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む(90分)	
12	給食の安全・衛生 (1)安全・衛生の概要と実際 演習問題を行う	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する(90分) 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む(90分)	
13	給食の安全・衛生 (2)事故・災害時対策	事前：テキスト指定範囲(授業計画)を通読する(90分) 事後：授業を復習し、課題プリントに取り組む(90分)	

14	給食の安全・衛生 (2)事故・災害時対策 事例を通してのディスカッションを行う (内容は授業時に示す) 演習問題を行う	事前: テキスト指定範囲 (授業計画) を通読する (90分) 事後: 授業を復習し、課題プリントに取り組む (90分)
15	給食の施設・設備 (1)生産(調理)施設・設備設計 (2)食事環境の設計・設備 演習問題を行う	事前: テキスト指定範囲 (授業計画) を通読する (90分) 事後: 授業を復習し、課題プリントに取り組む (90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

- ・受講に際し、事前に教科書の該当項目を通読するとともに事後も確認を行って確実に理解する。
- ・各施設の栄養管理や運営状況を調べ、準備学習にとりこんでください。
- ・災害発生時対応を理解し、運用できるように習得してください。
- ・課題プリントは、解答後提出を求めます。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	課題プリント提出・完成度	授業への取り組み姿勢	
70%	20%	10%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
給食経営管理論—栄養・安全経済面のマネジメント [第3版]	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正 編	株式会社 みらい

参考書又は参考資料等

各出版社の給食経営管理論の教科書及び参考書

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

- ・管理栄養士としての企画力、マネジメント能力、適切な評価などに適応できるように積極的に学び、自ら考えながら授業に取り組んでください。
- ・講義中の私語は厳禁とします。他の受講生への影響を鑑みて退室を申し渡す場合もあります。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	児童・生徒の栄養指導Ⅰ		
担 当 者 名	安倍 ちか	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1800001	授 業 形 態	講義
学 年	3年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数	2	履 修	栄養教諭必修
ナ ン バ リ ン グ	K-3-A		
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>本科目では、栄養教諭、行政の職務経験を有する教員が、栄養教諭制度が創設された経緯や栄養教諭の役割について社会的ニーズを踏まえて講義を進めるとともに、グループディスカッションを通して理解を深める。</p> <p>子どもたちの食生活の現状は、朝食欠食、栄養の偏り、肥満、痩身傾向等、生活環境や食生活の乱れが深刻になっている。このような背景のもとに栄養教諭は、学校給食の管理と食に関する指導を一体的なものとして、栄養に関する専門性をいかに教育に生かすかという視点で教育力や食の専門性の向上を図る必要性について学ぶ。</p> <p>具体的には、児童・生徒の食に関する課題を把握するとともに、学校における食に関する指導を充実するための法的整備、学校給食を教材として活用した食に関する指導の在り方、給食時間をはじめとして関連教科、領域等、学校教育活動全体を通して食に関する指導を展開させたい。</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>1) 栄養教諭が創設された背景や制度について理解し、説明できる。</p> <p>2) 児童・生徒の食に関する現状と課題について、データを用いて分析し、説明できる。</p> <p>3) 学校給食を食に関する教科等の学習指導に活かすための教材研究の方法を習得できる。</p>		
授 業 計 画	準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習 等) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間		
1	オリエンテーション／児童・生徒の食生活を取り巻く現状と課題（グループワーク）	<p>事前：児童・生徒の食に関する現状とその課題について調べる。（90分）</p> <p>事後：児童・生徒の食に関する現状と課題を踏まえ、目指す栄養教諭像について考え、まとめる。（90分）</p>	
2	食育基本法の施行、食育推進基本計画の決定とその経緯	<p>事前：食育基本法について事前に読む。（90分）</p> <p>事後：食育基本法が制定された背景と児童・生徒の食育に関連する条文をノートに整理する。（90分）</p>	
3	栄養教諭制度創設の経緯（栄養教諭制度創設に係る審議会答申、学習指導要領の改訂等）	<p>事前：栄養教諭制度創設に係る審議会答申について通読する。（90分）</p> <p>事後：食に関する指導と学習指導要領との関連についてノートに整理する。（90分）</p>	
4	栄養教諭の職務内容、使命、役割（学校給食の管理・食に関する指導）	<p>事前：栄養教諭の職務についてテキストを通読する。（90分）</p> <p>事後：栄養教諭に期待される役割について、授業を踏まえて自分の考えをノートにまとめる。（90分）</p>	
5	児童・生徒の指導及び管理に係る社会的事情、児童生徒の指導及び管理に係る法令及び諸制度（学校教育法、学校給食法、教育職員免許法等）	<p>事前：学校給食法を読み、学校給食の目標をつかむ。（90分）</p> <p>事後：学校教育法、教育職員免許法の食に係る内容についてノートに整理する。（90分）</p>	
6	学校給食の歴史と意義、役割等	<p>事前：学校給食の歴史について調べる。（90分）</p> <p>事後：学校給食の役割について授業を踏まえてノートに整理する。（90分）</p>	

7	食に関する指導の必要性と意義等 (グループディスカッション)	事前：食に関する指導がなぜ必要なのかを調べる。(90分) 事後：食に関する全体計画の作成の必要性をノートに整理する。(90分)
8	児童・生徒の体位と健康	事前：学校保健統計調査より児童・生徒の健康状態を把握する。(90分) 事後：授業を踏まえ、個別的相談指導が必要な児童・生徒の健康上の課題をノートに整理する。(90分)
9	児童・生徒の食習慣と心と体の健康	事前：児童・生徒の食習慣について国のデータ等を通読する。(90分) 事後：児童・生徒の食習慣が心や体の健康に与える影響についてノートに整理する。(90分)
10	児童・生徒の栄養について	事前：学校給食摂取基準について調べる。(90分) 事後：学校給食の栄養管理のポイントについてノートに整理する。(90分)
11	国民の栄養等に関する諸課題、法令及び諸制度	事前：国民健康栄養調査等の関連資料について通読する。(90分) 事後：国民の栄養状態の課題とその解決に向けた方法について考え、ノートに整理する。(90分)
12	食生活に関する歴史 (祖先の食生活に対する取組、知恵、工夫等) (グループディスカッション)	事前：昔の人々の食生活に関する知恵や工夫について調べる。(90分) 事後：昔に人の知恵や工夫が現代にどのように繋がり、活かされているのかを情報収集する。(90分)
13	食事及び食物の文化的事項 (食事環境・食器具の食文化等)	事前：昔から現代までの食事環境や食器具等の変遷についてテキストを通読する。(90分) 事後：食事環境や食器具等の変遷の背景を把握する。(90分)
14	地場産物の活用と郷土料理 (グループワーク・発表)	事前：自分の住んでいる地域の主な産物や郷土料理を調べる。(90分) 事後：グループで交流し、深めた内容についてレポートにまとめる。(90分)
15	学校給食を生きた教材として活用する教育的効果等 (グループワーク・発表)	事前：学校給食の教材化の具体例を考え整理する。(90分) 事後：学校給食を生きた教材とした活用することの効果(よさ)についてレポートにまとめる。(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

- ・「ノート」については、紙ベース若しくはP C等を使用して作成すること。
- ・「ノート」については、定期的に提出を求めるので、常に整理しておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	レポート、ノートの完成度	授業への取組み(ディスカッション等)	
70%	20%	10%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
食に関する指導]の手引－第二次改訂版－	文部科学省	健学社

参考書又は参考資料等		
小学生用食育教材 楽しい食事つながる食育（文部科学省） 中学生用食育教材 「食」の探求と社会への広がり（文部科学省）		
その他 〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕		
<ul style="list-style-type: none"> ・レポートやノートについても成績評価に関わるので、真剣に取り組むこと。 ・グループワークやグループディスカッション等、作業に取り組む姿勢や協力態度等も評価の対象となる。 		
担当教員の連絡先等		
担当教員E-mail	その他	